

会議録

会議の名称	平成27年度第5回西東京市子ども子育て審議会
開催日時	平成28年1月27日（水曜日）午後7時から9時まで
開催場所	田無庁舎5階 503会議室
出席者	委員：森田会長、古川副会長、網干委員、小松委員、菅野委員、田口委員、武田委員、中尾委員、浜名委員、日高委員、福田委員、横山委員、吉野委員 事務局：子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、保育課長 保谷、児童青少年課長 齋藤、子ども家庭支援センター長 日下部、保育課主幹 武田、子育て支援課調整係 阿久津、栗林、保育課保育係 増田、大庭、稲越、本庄 欠席者：小関委員、中村委員
議題	1 委嘱式 2 審議 認可保育所及び小規模保育所の利用定員について 3 その他
会議資料の名称	資料（席上配布） 資料1 西東京市子ども子育て審議会委員名簿 資料2 認可保育所の利用定員について 資料3 小規模保育所の利用定員について 資料4 平成28年度・29年度審議・報告予定案件
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 委嘱式</p> <p>（傍聴者の入場）</p> <p>2 審議</p> <p> 認可保育所及び小規模保育所の利用定員について</p> <p>○森田会長：</p> <p> 利用定員については、昨年度に待機児童対策や保育サービスの提供について、量的な計画を作った。その計画に則って保育所を誘致しなければならない。保育施設には幼稚園もあり、幼稚園・保育園の形態も様々だ。そういう施設を全く利用しない人もいる。どういう保育施設を利用して子どもを育てるかは自由だ。どのくらいの基準でどういう年齢の保育をすれば市民の必要としている保育量に近づけるかを考える。</p> <p> 事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>（事務局から資料2及び3について説明）</p> <p>○森田会長：</p> <p> 今年度は保育園の定員をどのくらい増加させなければならないのか。認可保育所は、どのように選定をしたのか。地域型保育事業所はいくつかの応募の中から選考したとの</p>	

ことだが、今回の2園を設置すれば今年度の計画どおりの定数になるのか。

○事務局：

今年度から新制度が始まり、量的拡充の計画が策定された。今年度は来年度に向けての準備経費として予算を確保している。計画では、27年4月1日から28年4月1日にかけて0～5歳で300名を超える定員増を見込んでいる。28年度から29年度にかけても同程度の定員増が必要で、それによって29年度は計算上待機児がいなくなることになっている。

一方で、今回の設置は認可保育所1園と地域型保育事業所2園のみで、300人に達するような状況にはなっていない。

認可保育所は、いくつかの事業者からの提案のうち、まず、より効果的に待機児に対応できる地域を選定した。それから規模や事業者からの歳児別定員の提案等を参考に、28年4月開所に向けての実行性の高さも選定の対象として、この事業者に現実性があると認めた。

27年4月1日の待機児童数143名うちの90%以上が0～2歳に集中しており、3歳が若干、4歳が少し、5歳はほとんどない、という状況になっている。一方で認可保育所は0～5歳を受け入れる施設である。認可保育所を増やしても4,5歳の需要が見込めず、また0,1,2歳の受入人数にも限界がある。小規模保育事業所は、0～2歳の受入施設なので、こちらを併せて充実し、待機児の解消を狙う。28年4月に向けての準備経費として9か所分の予算を確保し、公募を2回行った。結果として3事業者4か所の提案があった。

内部の選定委員会で選考を行い、2か所を今回提案させていただいた。残りの2か所のうち1か所は、地域的にほかの施設と調整の必要があったため、選定しなかった。もう1か所は事業者を選定したが、建築上の問題から、4月開所の予定が遅れる見込みがあるため、今回の提案には載せなかった。

○森田会長：

一番の問題は、合計で100人ちょっとしか利用定員の増加ができないことだ。予定より200人ほど足りないが、どのように考えるか。また、地域型保育事業所で3歳未満の受入人数を増やすと、今すでに3歳の待機児が出ている状況で、さらにいっそう3歳の待機児が出てしまう可能性になる。3歳児の枠をどのような形で補強するのか。

○事務局：

御指摘のとおり、予定数がかなり少ない。本来9か所欲しかったところが、結果として2か所か3か所にとどまり、概ね6か所が先送りになる。28年度途中の開所、29年4月1日開所、あるいは、当初の想定外だが、29年度途中開所も必要になってくると考えている。開所を先送りしつつ、最終的には29年度末に国が掲げる待機児解消を目指す計画を練っており、それに沿った来年度の予算編成をしている途中である。

現在の3歳の待機児は、地理的な問題が大きい。今回の地域型の子たちが卒園しても、受け皿はある。ただ、小規模保育事業所が計画どおり増えてくると、いずれ定員数的には受け入れきれなくなる。今後新設する認可保育所で3歳児枠を確保しつつ、幼稚園での3歳児受入れも検討しながら整理しなくてはならない。それが課題と考えている。

○森田会長：

今回示された3園はこれでいいかという問題と、これらを認めたとして子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の中での課題が越えられるのかという問題がある。保育園を作るだけでは話は終わらない。幼稚園との協力関係をどのように進めていくのか。認定こども園への移行又は設置という問題をどのように進めていくのか。保育の質を担保するためにどのようなシステムを開発していくのか。そのあたりのことを協議するための協議体をどのように構築していくのか。

量的な問題と、サービスの様々な種類を含めた質的な問題を、適切な保育サービスを提供することについて並行して具体化していかなければならない。次年度に向けてきちんと議論をしていきたい。

利用定員については、認可保育所の5歳児を初年度は0人にするというのは分かる。例えばその初年度1年間だけでも、特定保育のような形で、0～2歳のところに定員を増やすことは検討されたか。特定保育というのは、今年1年間だけはいてもいいというもので、認証保育所等でよくあることで東京都も認めている。見解をうかがいたい。

○事務局：

今お話のあった特定保育については、われわれとしては検討していない。

○森田会長：

これだけ待機児のあるところの認可保育園で保育士もスペースもあるとすれば、取り組んでいただけないか、と事業者申し入れしてもいいのではないか。

武田委員はそういうことをやったことはないか。

○武田委員：

やったことはないが、やれるといいなどは常々思っている。その年によって融通をきかせられるなら、保護者にとってもいいことだと思う。

○事務局：

特定保育の制度そのものについて予算的負担等も確認しながら事業者と協議したい。

○森田会長：

できるだけ地域ニーズに応えるということをお願いをしたい。

○浜名委員：

保育士の職員配置、保育室の面積、避難経路2か所の基準の説明があったが、都の基準はこの3つをクリアすればいいのか。ほかにも条件があるのか。そのことは認可保育所でも小規模保育所でも同じなのか。

また、保育時間等はどうなっているのか。時間外保育での保育士の配置等はどうなっているのか。認可保育所には給食室があるようだが、3施設とも給食がでるのか。

○事務局：

今回お示した基準は、お子さんたちを預かる上で利用者の方に直接かかわる部分で代表的なものを挙げている。認可保育所も地域型保育事業も、このほかに満たすべき基準は多岐にわたる。

給食の提供は、認可保育所も地域型保育事業所も、自園調理が原則となっている。

○森田会長：

認可に必要な書類は大変膨大な量になる。今回はその中の利用定員に関連する事項が示され説明された。保育時間に関しては11時間開所が原則になる。その時間以外をどうするかはそれぞれの保育所が決めていくことだ。

○事務局：

認可保育所の開所時間は、他の私立保育園と同様に午前7時から午後8時までとなっている。

小規模保育事業所2園は、午前7時から午後7時まで12時間開所する。午後6時から7時までが時間外の延長保育時間となる。延長保育の時間帯は小規模保育事業A型は最低限保育士2名を配置、小規模保育事業B型は配置する2人のうち1人は保育士で、もう一人は保育従事者として一定の研修を受けるということになっている。最低限は2人だが、日中の基準と変わらず、子どもの人数に応じて職員配置することとなっている。

○小松委員：

小規模保育所が増えた場合の3歳児の受け皿として、幼稚園にも検討してほしいとの話があったが、現在ある幼稚園に受け皿をお願いするのか、それとも認定こども園を含む幼稚園の設置を新たに考えているのか。

わが子が通っている幼稚園は毎年定員がオーバーしていて、環境的にも教育的にも本当に通わせたいけど、残念ながら何人かはそこに入れないという現状がある。受け皿を求められると、幼稚園に通わせたいのに通わせられない人が増えてしまう心配がある。

○森田会長：

公立の幼稚園ではないのでこちらから強制はできない。幼稚園は幼稚園自体がどうか決断される。

○網干委員：

幼稚園の現状として、市の南地区は、人口が増えていることと小金井市に幼稚園が少ないためかなりの園児が流入していることで、激戦になっており定員オーバーになっていることが多い。南と北ではその較差が大きい。来年度は少しおさまる傾向もある。幼稚園全体では、預かり保育をやっている園がほとんどだ。ただ、働く人を全部受け入れるというのではなく、働いていても幼稚園に通わせたいという思いを持つお母さんたちが、自分のライフスタイルを維持しつつ子どもに負担がないように、働く時間以外は自分で子どもを見る、または、地域やほかのお母さん方と協力しあうことを目指してながら、受け入れるということを選択肢としている。

○森田会長：

今年度の計画定員に200人分不足なのであれば、次年度は当初予定の300人にプラスして500人を確保しなければならない。次年度の計画はどのように具体化できるのか、今のお話も含めて、今後のあり方について次の予定案件で議論したい。

今回のこの3園は、認可保育所の特定保育をどうするかという課題はあるが、利用定

員については認めるいうことでよろしいか。

○網干委員：

人数的な部分で認めざるを得ないと思うが、質のところをきちんと検討していただきたい。この資料では、保育士は予定数だ。現実には、人が集まらずに保育士の数が半分くらいになるとか、実際に人が雇えていないということを多く聞く。

一番心配なのは株式会社のところだ。この情報だけではどういう会社なのか分からない。株式会社の運営する幼稚園・保育園で働く人の多くは1年2年で辞めていき、現場には戻ってこないと聞く。また、園長の経験が少ないために事案を処理しきれない例もあるという。そのせいで保育園自体が続かないのは困る。そういうところも市が見守っていただきたい。

○森田会長：

地域によっては、幼稚園・保育園が組織として事業者として話し合えるような場を設けているところもある。もっと議論ができる風土を作って、保育を共有しあいながら高めていかないと、組織は行政ばかりを頼っていてはだめになる。そういう意味で今後保育の中身の問題を議論する場をどういうふうに地域の中に作るかという問題もある。

保育士の確保の問題は、この人数を担保させる努力と確認をきちんとしていただく。

○網干委員：

申請のときには保育士を雇う予定でいて、実際は人が集まらなくて資格がない人を雇うということはないのか。

○森田会長：

そういうことがあった場合はすぐに営業停止になるし、補助金等もすべてカットになる。その発見が遅れたり、保育の質に影響が出たりしないためにも、巡回指導や検査は慎重に厳しくやってもらいたい。

○武田委員：

保育に従事する人は、基本的に保育士資格を持っている。用務的な仕事を手伝っていただく方は資格のない場合があるかもしれないが、保育従事者はパートといえどもみんな保育士資格者だ。ただ、最近本当に保育士が不足していて、仕事を始めても過酷で耐えられずに辞めてしまう方が増えている。保護者対応や13時間保育のローテーションなど本当に厳しいうえに、朝早くから夜遅くまでほとんど利用定員に近い人数の利用がある。保育所に課せられているものがここ数年本当に大きくなってきており、困難さは以前よりも一層強くなっている。今回示された基準は保育の質の問題に直結してくるので、旧都基準ではなく国基準になっているのは残念だ。

○古川委員：

現実には、預けたいという量的な需要の情報ばかりがあり過ぎて、質の部分が軽視され過ぎている。数を確保するために、社会人としての能力も身につかないままの保育士が入るリスクを負うことにつながる。いくつもの保育所を運営する企業型の中には、保育士の異動が早く、保育士自身が育つ機会が失われているところもあると聞く。とりあ

えず子どもさえ見ていればいい、ということではないはずだ。

第三者評価も、安全性や衛生面ばかりで、保育の中身はほとんど問われていないのではないか。質に対する視点をきちんと持つべきだ。一方、質ばかりを追求すると、数が全く足りなくなるという現実もある。人格形成に影響を及ぼすサイクルになりつつあるということを意識していないといけない。

ニーズに合わせて多様な支援ができるシステムにしていく必要があると思う。

○森田会長：

ほかにご意見はよろしいか。皆さんのお話は今後の課題として受けて、今回の利用定員はこれを認め、議論は次回以降につないでいくという形にしてよろしいか。

○福田委員：

認可保育所の定員は今79人と書かれているが、これは29年度には変わるのか。

○森田会長：

その予定という説明だった。またそのときに議論をする。

3 その他

(事務局が資料4について説明)

○森田会長：

次回の会議については、あらためて来年度の予定のお伺いや議題の提案をさせていただく。

審議会のできる議論はかぎりがあるので、場合によっては部会等を設けて緊急度の高いものからきちんと議論をしながら審議会に挙げていく仕組みを作りたいと思っている。ぜひ皆様に御協力をいただきたい。

閉会